

里だより ~254号~ 平成29年9月発行



介護老人保健施設 ゆうきの里

玉名市上小田1063番地 TEL0968-74-0666

【秋の風物詩】

朝夕の暑さが少しずつ和らいできました。残暑の疲れが出る時期です。いつもより健康管理に気を配りましょう。

さて、9月といえば「お月見」の季節です。十五夜にすすきを飾り団子を供える、これは日本の秋の風物詩となっています。



＜十五夜の由来＞

十五夜とは満月を意味し、月が出ない新月と呼ばれる時から満月になるまでおよそ15日かかることから十五夜と言われています。十五夜というものの自体は毎月あります。その中でもお月見の十五夜は、別名「中秋の名月」と言われ、空が澄んで特に美しく晴れ渡る空が見える9月中旬～10月上旬頃です。今年は10月4日です。

お月見は平安時代から始まり、江戸時代に入って、月は作物が月の満ち欠けと一緒に成長していくことから縁起がいいものとされ、“秋の収穫を喜び感謝する祭り”として今に至っています。

＜十五夜の楽しみ方＞

縁側やベランダなど月を眺められる場所に月見台を置き、三方に月見団子や里芋、果物などのお供え物を飾って楽しめます。

- 月見団子：穀物の収穫に感謝して、米粉を丸めて作ったのが始まりです。
- すすき：すすきが稲穂に似ていて、江戸時代に収穫を祝ったことから飾られるようになりました。十五夜にすすきを飾ると一年間病気をしないという言い伝えもあるそうです。

十五夜が見える場所で食卓を囲み、家族で過ごすのも素敵ですよ。

